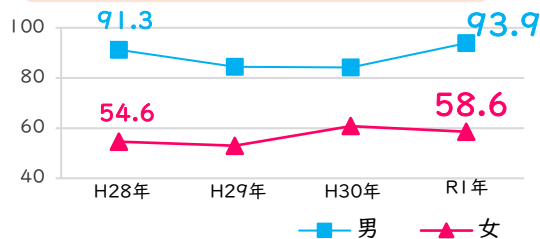


がんの75歳未満年齢調整死亡率の減少

※75歳未満人口10万人当たり

*
全
体
目
標
*

目標を達成するのは難しい状況です



※国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

科学的根拠に基づく

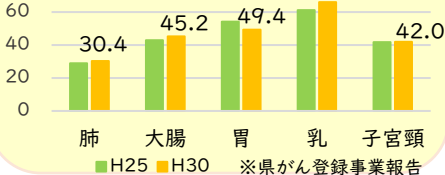
がん予防・がん検診の充実

がんの早期診断割合

早期がん発見率進行度限局(上皮内がん除く)の構成比(%)

乳がんは、改善傾向

その他は、横ばい傾向



※県がん登録事業報告

患者本位のがん医療の実現

これまで受けた治療に納得しているかについて「納得している」「やや納得している」と回答したがん患者の割合は、増加傾向

80.2 (H26)

→91.7% (H30)

※患者体験調査

尊厳を持って安心して暮らせる
社会の構築

がんと診断されたとき、相談できる環境があると感じた患者の割合は、増加傾向

63.0 (H26)

→81.7% (H30)

※患者体験調査

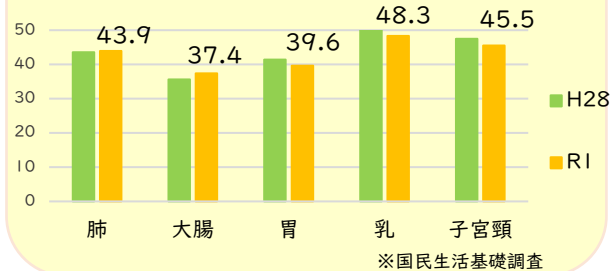
がんの予防

- ▶ 男性の成人喫煙率は、横ばい傾向
女性の成人喫煙率は、増加傾向
1歳6ヶ月検診における両親の喫煙率は、改善傾向

*
分
野
別
施
策
・
個
別
目
標
*

がんの早期発見、がん検診

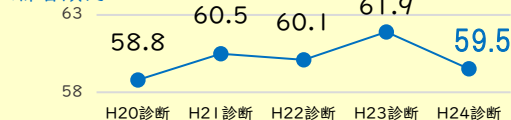
▶すべてのがんの検診受診率で目標値(50%)を下回る



※国民生活基礎調査

がん医療と人材育成

▶がん患者の5年生存率(相対生存率・%)は、漸増傾向



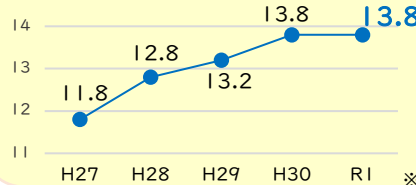
※県がん登録事業報告

医療提供体制

- ▶全医療圏で拠点病院等が指定されており、がん診療等の機能充実・強化が図られた

在宅医療

▶がん患者の在宅死亡割合(%)は、漸増傾向



※人口動態統計

緩和ケア

- ▶現在の心身の状態「気持ちがつらい」かについて、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した患者の割合は、減少
62.0% (H26) → 59.0% (H30) ※患者体験調査

ライフステージに応じたがん対策

- ▶患者・家族向けの妊よう性と妊よう性温存に係る説明書を作成し、県内医療機関での活用が進められている

それぞれのがんの特性に応じた対策

- ▶希少がんについては、県拠点病院に集約する体制及びがん相談支援センターによる相談体制が整備されている

離島及びへき地対策

- ▶離島・へき地にて、がんに関する講演会および相談会を実施し、地域のがんに関する関心が高まった

相談支援と情報提供

- ▶がん患者等関係者への支援として、おきなわがんサポートハンドブックを毎年更新発行。従来の冊子に加え、専用サイトを開設しウェブ上でもアクセスし易くなった

がん患者等の就労を含めた社会的な問題

- ▶がんの治療中に、治療と仕事を両方続けられるような支援・配慮を職場等から受けた割合は、増加
55.9% (H26) → 72.3% (H30) ※患者体験調査

がんの教育・普及啓発

- ▶「周囲の人からがんに対する偏見を感じる」と回答した患者の割合は、減少
12.5% (H26) → 11.1% (H30) ※患者体験調査

がん登録

- ▶がん登録制度の推進とがん登録情報の利用促進に努める

次期計画に反映していきます